

文月稲荷神社

文政6年(1823)第10代松前藩主章広が再建を命じ、藩主白筆の社号額「正一位文月白狐稲荷大明神」が奉納された。また章広が同11年(1828)、神社造営由来を家臣に記させた漢文でしかも長文な額と、天保3年(1832)に奉納された俳句額があり、当時の箱館や江差の人ら58人の137句が詠まれている。2句紹介する。

飼い犬もなつぼの番や群来にしん 寒垢離や隣は遠き田舎道

この三つの額は平成16年(2004)、大野町文化財に指定され、その模写額が北斗市郷土資料館に掲げられている。

松前藩下で3大稲荷と称されるのは文月の白狐稲荷、湊(旧銭亀澤村)の石倉稲荷、江差笹山の直満稲荷である。



おおの郷土史かるた

- ② 蝦夷の地に初めて咲かせた稲の花
- ③ 俳句額神社に納め無事祈る

北海道水田発祥の地

文月米作の歴史は3説ある。

- ① 文年間説・「松前藩主の命により、文月及び大野の某が、米の試作に服した」
- ② 貞享2年説・「文月の高田吉右衛門が、押上の地に水田を開き、米作を試みた」
- ③ 元禄5年説・「野田作右衛門が、押上の地に450坪を墾田し、10俵の米を収穫した」

昭和24年(1949)、大野村字村内に建てられた石碑「北海道水田発祥之地」(知事田中敏文書)には次のように刻まれている。

水田発祥由来
亀田郡大野村字文月押上のこの地に元禄五年農民作右衛門なる者南部の野田村から移つて人々の定着は米にあるとして地を拓し自然水により四百五十坪を開田し産米十俵を収穫した爾来消長あつたが後「御上田」と称して現在に及んでいる先人未踏の北辺に今日道産米三百万石の基礎はかうして發祥したものである
渡島支廳長 岡 武夫書
昭和二十四年八月 建之

碑文は『松前志』の記述や様々の調査、村民の伝承によつたものである。

平成20年、「北海道水田発祥の地碑」が北斗市文化財に指定された。周辺整備の声が強まっている。

◆ 文月学校・分校 ◆

明治11年(1878)、大野学校が開校した。文月村からも10数名就学したが、通学に困難なため文月村にも学校を設立しようと、有志が相計り2年後の13年に文月学校の開校にこぎつけた。

独立校、大野小学校との分教場・分校を繰り返したが、平成11年(1999)、120年の歴史に幕を閉じた。

23年、文月町内会が市の応援を得て跡地を「文月社公園」に甦らせた。



○ 道祖神 ○

村の岐路などに石を祀り、悪霊を防ぎ行人を守護する神としたものだが、男根形にしたものもある。

舟上と称していた所で土に埋もれていた3個の石が発見された。そこは松前藩主が鷹狩で通つた道だったといわれる。昭和44年(1969)、小高神社横に再建された。